

対策必須!? 冬の雨

前回夏コミでは見事に雨に祟られた。もはや『コミケには雨は降らない』というのは過去の物語にすぎない。

たしかに関東では冬は雨が少なく、年明け前に雪が降ることは非常にまれではあるが、それでも昨今の気象事情から見れば降雨、降雪に対する備えは必要だといえる。

夏に雨の中に並んだ経験をされた方は骨身に染みただけではないかと思われるが、夏ですらあれだけ寒かったのだから、冬ではいかにひどいだろうか。

雨の可能性自体は低くても、対策自体は講じておいて無駄ではないだろう。

雨の際にもっとも使われるものといえばもちろん傘、しかしながらこれは歩行の際にはともかく、長時間の待機、しかも人間が密集した行列には全く向かない。

行列では周囲の傘から流れ落ちた雨水は右から左から飛んでくるし、風に乗って横からも吹きつけてくる。足元にも水が溜まり、靴にもどんどん染みってくる。

実際今夏の雨の際にも、傘をさしていながら濡れになってしまった体験をした人は多いと思われる。

今回は冬である分当然気温は遙かに下になり、より過酷な環境となるのは間違いないだろう。

さて、いったん服や靴が濡れてしまえば、あとは体温を奪われる一方になり、低体温症などへ一直線となってしまうわけだが...、これを避ける方法は2つしかない。

1つは、とにかく当日の天気が雨と予想される場合は意図的に遅く会場に着くようにすること。おおむね12:00過ぎくらいに着けば、ほぼ並ばずに入場できるはずだ。

もう1つは、濡れないか、濡れても大丈夫な算段をつけていくことだ。

とはいえ、冬は濡れた服が乾きにくく、短い時間でも濡れた服を着ていると急速に体温を奪われるので全面的な『濡れても大丈夫』とはいかないが、以下のことには、最低限気をつけてほしい。

- ・下着以外の肌着、靴下、シャツなど、直接肌に触れる衣類には極力綿製品を着ない。
- ・Tシャツ、靴下やストッキング、タイツ、タオルなどは必ず予備を持参する。

さて、そうなると大切なのは『濡れない』対策である。

濡れない、とは、直接身体まで雨水が到達しないことをいう。究極、雨水が染みこんでこない衣服や靴を着用すればよいわけだ。

当然1つの回答はレインコートや雨合羽（最近では『レインウェア』と呼ぶ）を、通常の衣服に重ねて着用することだ。これは最近では1万円以下の価格帯でもかなり優れた防水性と、おまけに中の蒸れを軽減する透湿性という性能まで持ったものが入手できる。ちなみに、透湿性の有無が品質の1つの目安となるので覚えておこう。

若干着たり脱いだりが面倒ではあるが、さすがはそれ専用で作られたウェアだけあって、長時間並ぶならこれに勝るものはない。余談ではあるが、現に筆者は今夏レインウェアを着用して3時間強程一般行列に並んだが、最終的にほぼ一滴も濡れることなく入場できた。

ちなみに、コンビニなどで数百円で入手できるような雨具類は1時間もすると風が多小防げる以外はほとんど着ていないも同然になってしまうので、傘とコンビで使用することを前提にしても、『無いよりはマシ』以上の効果は期待しないほうがよい。

『そういわれてもさすがにそんな専用のレインウェアを購入・持参するのはちょっと...』という向きには、防水性能や撥水性能を持った上着をオススメしたい。

確かに安い買物ではないかもしれないが、きちんと手入れしながら使っていれば数年は優に保つし、普段着として日常の雨や雪の際にも活用できるので、もしコミケに行くために服を新調しようと考えている場合は検討してみてもいいだろう。

なお、購入してから時間が経ち、使い込まれた撥水ウェアはその機能が著しく低下している場合がある。そういった場合や、元々そういった性能を有していない上着類でも、クリーニングに出せばオプションで『撥水加工』というコーティングを施してもらうことができる。数百円の追加で済む場合がほとんどなので、一度相談してみよう。

こういったウェアと傘を組み合わせれば、かなりの時間保ちこたえることができる。

なお、種類によらずレインウェアを着る際にはちょっとしたコツがある。それは、肩口に厚手のタオルをかけることである。

この『お風呂上がりスタイル』によって冷たい雨が（雨具越しではあっても）肩に当たって体温を奪うこと、レインウェアの中が汗で蒸れること、首の開口部から雨が侵入して服を濡らすことを一挙に予防できるので、是非覚えておいてほしい。この方法を知っていれば、ぺらぺらのビニール製レインウェアでも多少は効果を永らえさせることが可能だ。

もう1つ、レインウェアに限らず雨の際にフードをかぶる場合は、つばの付いた（野球帽型の）帽子を用意するといいい。直接顔面に雨が当たるのを防いでくれるのだ。